

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300196		
法人名	株式会社オルゴール		
事業所名	グループホーム奏		
所在地	三重県名張市安部田2309番地		
自己評価作成日	2021年0月00日	評価結果市町提出日	令和3年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2491300196-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

創作作品の作成:年に1度秋に開催(昨年は中止)の文化祭行事への出展作の取り組みは春ごろから入所者、職員とが考えて取り組み地域交流への参加交流を持っています。
音楽療法:月に1度開催する音楽療法(音楽セラピー)は併設のデイサービスと共同開催し、好評を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

川や木々が目に入る素晴らしい景観の中に立地している。一年を通して季節を感じられる環境の中で、事業所の運営方針として家族介護の軽減と介護の三方善しく(入居者善し・職員善し・社会善し)を掲げ、社会福祉の向上を信念に笑顔で支援している。地域との交流を大切にと住民とのふれあいの場が持てるように支援を心がけており、コロナウイルス感染症対策のため文化祭等、地域の諸行事は延期・中止になっていたが、11月初旬には文化祭が開催予定で、作品制作に頑張っている日々である。ウイズコロナの日常であるが、何ができるかを考えながら個々の能力に応じた役割分担を決めて、利用者は出来る事を実行し、楽しく生活している様子が職員の話から伺う事が出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム奏の掲げる「5つの介護」の理念を職員の目の届くところに掲示し、毎日の介護従事に実践できるように努めています。	ミーティングや不定期の職員会議で理念を基に支援を振り返り話し合い、認識を高めあっている。理念の「5つの介護」を日々意識し、利用者・職員にも笑顔が見られるような支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の所在する地区主催の文化祭(秋開催)にグループホーム奏として参加し、1年間の事業所内でのご利用者様の作品類の展覧をして地域交流を持っています。	コロナ禍で地域との繋がりが少なくなり、利用者にストレスが溜まりやすくなっている。11月初旬には地域の秋祭りや文化祭開催が予定され、予防対策をしながら地域交流の場に参加できるよう、作品制作に前向きに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今までに事業所内の在所に在住する方の入所が比較的多く地域の方からの介護相談や支援等の協力を図り、一定のご理解を得ていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催に対して入所者様のご家族様の参加をしていただき、日々の出来事や家族様の意見等、名張市、まちの保健室職員、との話し合いの場としてサービス向上の一環に取り組んでいます。	コロナ禍で職員のみで開催し、入居状況や企画した取り組みの内容や実績等を書面や写真で各構成員に郵送で報告している。以前は参加者からいろいろな意見が出てサービスの向上に活かしていたが、今は困難である。	地域の理解や支援を得るために、ウィズコロナ禍でも参加者に積極的に関わり、その意見を聴取されるように書面を工夫して、サービスの向上に活かされることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターから介護相談員の訪問をはじめ生活保護給付入所者様の担当ケースワーカーの訪問等定期的に連携を持っています。	コロナ感染症予防について指導してもらったり、普段から連絡を取り合い、新しい情報もいただき協力関係は築けている。また、生活保護利用者を4名受け入れ、市担当者との連携も築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	書面にて「身体拘束の実践の有無」を作成し、拘束の範囲や取り組み状況を見返しやすくするように職員の理解を促しています。	身体拘束ゼロマニュアルがあり、身体拘束防止推進委員会を開催し拘束の理解をして、全職員で共有し支援に取り組んでいる。特に言葉の拘束では、その都度注意し合い拘束防止の意識が高まっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する留意事項等は職員会議で話し合い、「身体拘束の実践の有無」を取り入れて虐待防止の抑制に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所者様の中に成年後見人のついているかたがいる、月に1度は後見人さんが訪問してくれて権利擁護等に接する機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には契約内容、重要事項説明を説明させていただく際に質問や疑問に思うことを確認することで充分なご理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生日やイベントなどの写真や作品を家族や外部者にお見せできるようにしています。家族様の意見要望は先に記した推進会議の場で何うようにしています。	面会自粛となり家族とのコミュニケーションは取りにくくなったが、面会に来られない家族には、電話で近況報告をし意見要望を聞くように努めている。把握した情報は介護記録に記載して全職員で共有している。家族の希望で、体操時間を増やした例もあり支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	積極的に職員からの提案をしてもらえるように頻繁に会話を設けています。また、思いついたことなどはSNSツールなどの活用し、発信できるようにしています。	SNSツールを活用する事で職員間の連絡を取っている。日誌には、各自が思いを記入し共有する事で業務の改善に活かしている。このため職員会議は不定期になっている。SNSツールには文化祭の作品のアイデアが満載で出品に向けて前向きに取り組んでいる。	利用者の状況を知る職員の意見をSNSツールの活用で交流する努力をしているが、SNSツールを活用しながらも職員会議を定期に開催し、さらに働く意欲の向上とアイデアが活性化される事が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任と業務内容とが釣り合えるような給与形態をはじめ勤務態度の反映、研修、資格取得の向上心を持てる環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得や研修へ参加しやすいように勤務シフトの配慮や職員の精神ケア等に配慮し有給休暇の取りやすい職場環境づくりをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設するデイサービスとの交流を通してグループホームにはない事柄など就労しながら各サービス(介護業務)の持っているソフト面を学びサービス向上とモチベーションアップへの取り組みをしています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当日に初対面とならないようにサービス提供前(入所前)に本人に直接面会をする機会を設け話を伺うようにしている。また、事前に知りえた情報と本人(家族)の意向をもとに入所生活の支援に取り組む。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で家族が困っている隠れた悩みや相談ごとなどできる限り相談できやすいように入所前の前任担当のケアマネも踏まえての関係づくりをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記(15, 16)から得た情報を基に、入所後に訪問診療医、看護師、職員、管理署の意見等情報共有をもって対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「暮らし・生活」の意識を持ってもらえるように個々で可能なことは自立してもらい排泄、更衣食事など全介護になることなく尊厳をもって援助できるサービス提供を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と会話のできやすいように通院や外食等断りなく受け入れています。※近日はコロナ禍の為実施減少傾向があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	19同様に友人の面会や自宅への外泊の積極的に行っています。※コロナの影響により今期の実施はなし。	コロナ禍で面会制限を実施している為、馴染みの人・場所との関わりは無しに近いので、日頃から利用者と共通話題を多く話し合い、なじみの関係継続に努めている。感染予防を十分に取り、なじみの専門医受診に外出される方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂に集まり全員での体操・歌等の時間を1日1回設けて連帯感を持てる雰囲気づくりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	小さな町(名張)なので日常の買い物など出先にて以前のご利用されていたご家族様から気軽にお声をかけられたり退所された本人様の現況等のお話を聞くことがあります。特に同地区のご家族様からは気さくに接してくれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活リズムに束縛や干渉をしないように個人での趣味や居室での時間は自由にしてもらっています。	利用者との日常会話等、交流の中から意向や要望をくみ取れるように努めている。コロナ禍の現在は面会自粛中で、家族来訪時に意見や要望を聞き介護記録に記入し、全職員が共有して個々に応じた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	併設のデイサービスにご利用の同在所の仲の良い方と共有時間を持ってもらうよう工夫することでなじみの会話や懐かしい思いに慕ってもらうようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	訪問医、看護師、訪問歯科医の意見を基に個々の身体状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者ごとに情報データを各カテゴリーごとに整理し日常の介護記録書と共に介護計画の作成に取り組んでいます。	利用者や家族の意見を聴取し、担当者会議・モニタリングを経て、短期6カ月、長期12カ月で介護支援専門員が介護計画を作成している。利用者に変化があれば、全職員がアセスメントから計画の変更まで関わり、主治医の意見も反映し、利用者 に即した計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本記録書となる「介護記録Ⅰ・Ⅱ」と1日の状況記録を記した「申し送りノート」を活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所で入所を断られた人工透析が必要な方や成年後見人を必要とする方の入所受け入れなど柔軟な対応でのサービス支援を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区対抗の運動会の参加、桜まつりの鑑賞会等コロナ前には積極的に向かい地域資源との協働を心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療と地域医療連携の充実観点から訪問診療（往診）・訪問歯科医療との協力体制にて可能な限りの範囲で通院時の感染リスクの回避に努めています。	月1回の協力医（全利用者が受診同意済）の訪問診療と、2カ月に1回の歯科医による口腔ケア診療を受けている。専門医受診者は4名いる。協力医とは24時間緊急時に対応が可能であり、適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所所属の看護師と訪問看護師と共通して薬の管理や医療受診時の助言、緊急時の連絡体制をつくりサービス支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の処理として管理者の状況確認と施設看護師の支援体制をもって病院関係者からの情報を家族様と職員に連絡しその意見を病院と相談しながら以降の関係づくりに務めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホーム看取り介護の指針」をもとに家族、医師、看護師との連携にて個々の対応をチーム全体で取り組めるようにしています。	「看取り介護の指針」の同意書を交わし、関係者が方針を共有し希望に沿った看取りに取り組んでいる。主治医・看護師との24時間協力体制が築かれている為、利用者と家族は安心している。今年度1名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対応に備え、以下の情報を職員に周知しています。①管理者・看護師への連絡②訪問医への連絡③状況の記録にそなえています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員に緊急避難場所の認識と近隣のかたへの声かけとご協力により事業所前の駐車場を第一避難中継場所と決め避難体制に備えています。	災害対応指針を作成し、近隣の方との協力体制も整っている。今年度はコロナ禍で地域と協力して防災訓練は実施されていない。コロナが終息すれば地域住民と合同訓練の実施を考えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様一人一人の性格や人格を尊重した対応を心掛けています。特に身体機能能力や得意分野を見極めた対応をしています。	プライバシーを損なわないように一人ひとりの人格を大切に「何がやりたいのか？」を日々の関わりの中で、聞き取りながら支援をしている。特に言葉使いには気を付け、状況に応じて柔軟に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の自己決定は否定せず趣味の時間に費やす方、自室でTVを観る方、食堂で会話する方など比較的自由にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間や体操の時間など決まった時以外は37に記させたとおり過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様の了承のもと定期的(3ヶ月に1回)、訪問理容にきてもらい身だしなみ等に心がけています。また、模様替え時期には家族様に衣料等の入れ替え物をもってきてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食は生活の基本と位置づけ料理は手づくりにて提供しています。食材調理の匂いなど五感を刺激できるようにホットプレート等で目の前での調理は皆様喜んでいただいています。	利用者が出来る事を職員と一緒にすることで、個々の生きがいになるような支援をしていたが、現在はコロナ禍で控えている。誕生日食や行事食は大好評で、職員は利用者に食べる楽しみを味わって貰う工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や看護師の助言をもとに個々の食事形態に留意し、栄養のバランスと食べやすい食事(ぎざみ食)の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操や訪問歯科による定期口腔ケア(管理指導)により口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を別途作成し、個々の排泄パターンを記載し、自立支援維持に努めています。また支援・見守りの必要な方以外は自らで排泄してもらっています。数人の入所者さまは布パンツを維持してでの生活をしていただいています。	個々の排泄パターンを排泄記録表で全職員が把握し、時間を決めてトイレ誘導をする事で自立を促している。自立に向けた支援により、布パンツで快適な生活をしている利用者が4名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対応として訪問医、看護師に個人別に相談し、食事の管理、便薬の投与時期と言った予防・対応に気を付けています。特に衛生面の観点から下痢にならないように細心の注意をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調の悪い方以外は週3回の入浴を基本とし、職員の流れ作業にならないように一人一人の入浴時間を提供しています。	基本週3回の入浴であるが、風邪を引いた後や汗をかいた後など希望に沿った支援もしている。一人ひとりの入浴時間を十分に取り、会話をしながらの支援は笑顔も見られ、楽しく有意義な時間になるような支援になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、消灯時間を設けておらず、居室にてそれぞれの時間を好きなように過ごしてもらっています。早く就寝する方、テレビを観る方等様々で個々の就寝生活環境に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者ごとに名前、用法時間を明記し、看護師の服薬管理のもと介護職員と連携して日々の変化、症状の支援に努めています。大きな変化等の場合は医師との相談にての体制をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今期開催の文化祭出展作品の制作は入所者、職員とで取り組むことで入所者の役割と楽しみ自信を持ってもらえる支援となっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	【コロナ前】春の桜ドライブ、秋の紅葉、地域の運動会、外食等…定期的に屋外でのイベント開催をしていました 【コロナ後】事業所前での日向ぼっこや近くを散歩するぐらいのこととどまっています。	コロナ感染症対策で外出が自粛される中でも、自然に囲まれた環境に恵まれ、外気浴を兼ねて近隣への散歩はしている。草花や川沿いの鈴なりの柿を眺める事で秋を満喫する事が出来ている。今は外食や遠方への外出は自粛している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族様のご了承のもと金銭等トラブルのないように事業所での金銭(貴重品)の所持はご遠慮していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人発信の行動はないですが、年賀状や絵手紙や郵便物は時に個人宛に届くことがあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材の素地設計でのづくりであり、照明も全体に配置設計されているため、事業所内が比較的明るく見渡せます。感染対策も兼ねて換気の循環、空気清浄機の利用で居心地よく過ごせる工夫をしています。	コロナ感染症対策で、時間を決めた換気や空気清浄機の使用で清潔で健康的な空間である。廊下は腰板の白木と吹き抜けの採光も程良く明るい。食堂兼居間は広々としていて空調設備も行き届き、居心地よく過ごしている利用者の姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子の方、話し好きな方、気の合う方等の状態や性格を配慮してのテーブル席の配置や全員がTVの観えるような配置(レイアウト)の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内は完全なプライベート空間であり、居室を傷つけない限り自由な部屋づくりを提供しています。使い慣れたものや写真など自宅より持ち込んでいただいています。	ゆったりとした居室に入居前から使い慣れた家具を持ち込み、安心して快適に生活できるように配慮している。テレビを持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全清潔なサービス提供ができるように毎日の清掃は心がけています。廊下内に無駄な備品の配置をせずに入所者様が安全で共同生活のできるように工夫しています。		